

小 論 文

水 産 学 部

注 意 事 項

1. 「解答始め」の合図があるまでこの冊子は開かないこと。
2. この冊子は、表紙を除いて2ページである。
3. 「解答始め」の合図があったら、まず、掲示又は板書してある問題冊子ページ数・解答用紙枚数・下書き用紙枚数が、自分に配付された数と合っているか確認し、もし数が合わない場合は手を高く挙げ申し出ること。次に、受験番号・氏名を必ず解答用紙の指定された箇所に記入してから、解答を始めること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に横書きで記入すること。

問 1

図 1 は、日本の供給熱量ベースの総合食料自給率とその内訳について、1965 年度と 2021 年度における状況を示しています。この期間における総合食料自給率の変化とその要因について、この図からわかることを簡潔に述べなさい（200 字以内）。

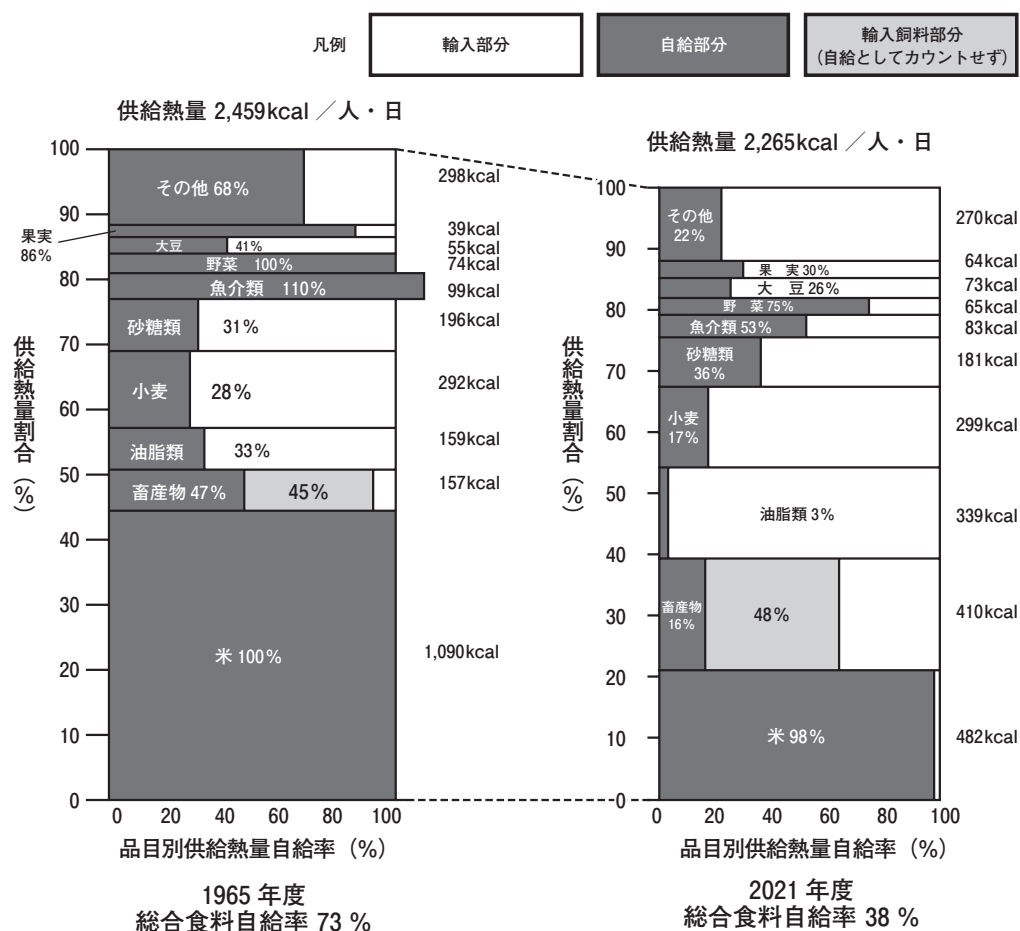
問 2

現在の日本の総合食料自給率は先進諸国の中でも低い水準にあり、食料安全保障の観点からその向上が目指されています。では、日本の総合食料自給率を向上させるためにはどのような対策が考えられるでしょうか。図 1 を踏まえ、生産と消費の両面から述べなさい（400 字以内）。

注 1：供給熱量とは、国民に対して供給される総熱量（エネルギー）をいう。「供給熱量ベースの食料自給率」とは、生命と健康の維持に不可欠な基礎的栄養価であるエネルギーに着目した「食料自給率」の指標であり、「カロリーベースの食料自給率」と呼ばれることもある。「食料自給率」には他に金額ベースや数量ベースのものもあるが、問 1 及び問 2 の問題及び解答における「食料自給率」は全て供給熱量ベースのものをを用いることとする。

注 2：食料安全保障とは FAO（国際連合食糧農業機関）によると、「全ての人が、いかなる時にも、活動的で健康的な生活に必要な食生活上のニーズと嗜好（しこう）を満たすために、十分に安全かつ栄養ある食料を、物理的にも社会的にも経済的にも入手可能である」状態を確保することとされている。また日本の政府広報では、「国内における農作物の不作や輸入の途絶などの不測の事態が生じた場合であっても、人が生きる上で最低限必要とする食料の供給を安定的に確保すること」とされている。

図1 日本の供給熱量ベースの総合食料自給率とその内訳



資料：農林水産省「令和4年度 食料・農業・農村の動向」より抜粋、改編

注1) 縦軸は総供給熱量のうち各品目が占める熱量の割合を、横軸は各品目の供給熱量のうち自給している熱量の割合を示している。図の中に表示されている数値(%)はその自給割合である。また畜産物においては、国産のうち輸入飼料に依存している割合を自給分から切り離して表示している。

2) 油脂類の多くは大豆を原料とする。畜産物生産に必要な飼料の多くはとうもろこしを原料とする。

